NIE実践報告

1．タイトル：☆ディベートをしよう

2．学校名

兵庫県明石市立二見中学校

3．実践者名（代表者名）

大藤陽子

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会科　公民分野　40人

6．単元（本時の学習課題）名

資料を読み取り、自分の意見を表現する

7．目標（狙い）

資料を読み取り社会的事象を客観的にとらえる。自分自身の意見を持ち、表現できる。

8．評価の視点

資料を読み取れているか。資料や周りの意見を聞きながら思考しているか。相手にわかりやすいように表現しているか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

1.「18歳で成人にするべきである」という議題に対して、自分の意見を書く。
2.新聞記事を読み取りながら、様々な意見があることを知る。
3.賛成、反対に別れ、ワークシートを使い、班ごとにディベートの原稿を作成する

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(1)6班を賛成派、反対派に分け3グループ作る
(2)ディベートをする班は、前に出て賛成派・反対派を向かい合うように座らせる。
(3)聞いている生徒には、評価用のワークシートを配布し判定させる。
(4)判定をする。
(5)3グループ順番に発表していく。
(6)評価する。(教師、生徒ともに)

(留意点)
(1)司会者、タイムキーパーを作る。
(2)発表中は、しっかり聞く。
(3)聞いている生徒が全員評価できるようにワークシートを配布する。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

非常に興味を示していた。新聞の賛否両論を読むことにより、思考を深められた生徒と自分の意見が定まらず困惑する生徒とに分かれた。評価する側、評価される側の両方の立場に立つことにより、全員が意欲的に取り組めていた。

12．成果と課題

正解がある問題を解くのを得意とする生徒は多いが、正解のない問題に対して真剣に向き合おうとする生徒は少ない。しかし、今回ディベートというかたちをとったことで、難しい問題をゲームのような感覚で考えることができた。生徒たちは、「議題を変えてもう一度やりたい」と意欲的な発言をしていた。また、高校の推薦入試の論文で「18歳で成人にするべきか」という論題がでており、生徒たちは自分の意見が書けたと自信を持って受験を終えた。

課題として、思考力のある生徒は新聞記事を自主的に読み、探し深く追求することができたが、思考力の低い